地方総合

各地の話題

石川・加賀市　住民ら40人が参加

クマ被害防止へ出没対応を訓練

【石川】近年、全国的にクマによる人身被害が相次いでおり、農業関係者への大きな脅威となっている。

このようなクマの出没に対応するため、加賀市勅使地区で5月20日、県主催によるクマ出没対応訓練が実施され、県と市、地元住民ら約40人が参加した。

訓練では、成獣1頭が町内で目撃された想定で、市への通報から地域住民への広報、逃走したクマの捜索、近くの空き地に移動していたクマを発見するまでの流れで行われた。また、県職員が麻酔銃を使い、眠らせたクマを網で捕獲するまでの手順を確かめた＝写真。

通報から捕獲までの手順確認

県は4月にツキノワグマ出没警戒準備情報を発令したが、その直後に女性がクマに襲われる人身被害が発生している。関係者は「県内でもクマによる被害が報告されているため、地域住民の訓練に対する関心が高まったのでないか」と話す。

県が4月に実施した調査では、クマの餌となる木の実は凶作傾向と予想されている。

昨年同様、今秋もクマの出没が多くなる恐れがあることから、同市では柿の実などの除去や生ごみを野外に放置しないようにするなど、クマの被害防止を呼びかけている。

（加賀市農業委員会）

施設果樹で第三者継承

宮崎市　田代敏徳さん・岡島和希さん

信頼厚い元ＪＡ職員に経営託す

第三者へ経営継承した田代さん（左）と元ＪＡ職員の岡島さん

【宮崎】農家の高齢化が進み、特に施設果樹では初期投資や未収益期間が支障となり、新規参入が困難な状況となっている。こうした中、宮崎市では、後継者がいない農業者の経営を第三者に継承する取り組みを支援している。

昨年度は、市内でマンゴーとパパイアの施設栽培を行っていた田代敏徳さん（66）から元ＪＡ営農指導員の岡島和希さん（36）へ経営が継承された。継承の話がスムーズにまとまったのは、田代さんが「養子に迎えたい」と話すほど、お互いの信頼関係によるところが大きいようだ。

岡島さんは「1㌶にも及ぶ農園を継げるのは自分しかいない」との強い決意をもって新規参入を果たしており、今後については「現在の施設を最大限に活用し、将来は他の品目にも挑戦していきたい」と熱く意気込みを語った。

「食の未来　守りたい！」

秋田・横手市　林龍太郎さん

スイカ・水稲などで大規模経営

【秋田】横手市の林龍太郎さん（33）＝写真＝は、2020年度に地元の同級生と共に㈲新東北AGRASを立ち上げ、現在はスイカや水稲などの複合経営を行っている。

就農のきっかけは、帰省中に知人の紹介による農家の手伝いで体験した「面白さ」や「充実感」だ。その体験が農業のイメージを大きく変える出来事になったという。

そんな折、横手市の農業研修事業があることを知り、2年間の農業研修を受け、27歳のときに就農した。当初は経験や知識もなく、また、農地や農業機械もないゼロからのスタートに苦労や失敗の連続だった。

しかし、地域の環境保全活動に参加するなど、地道に顔を知ってもらう機会を作り、人とのつながりを広げていった。試行錯誤しながら農業を進めていく中で、地域の農業法人や行政機関、ＪＡのサポートを受け、今では自作地20㌶、受託地30㌶ほどまでに規模が拡大している。

今後の展望について「秋田県の就農者の高齢化は深刻だが、30代が中心の当法人では、農業は成長産業だと捉えている。先人たちから学ぶ気持ちを忘れず、最新技術や機械を積極的に導入し、食の未来を守る地域のリーダーになっていきたい」と意欲的に語っていた。

（横手市農業委員会・佐藤絹子情報員）

八列トウモロコシを栽培

北海道・芽室町　川合拓男さん

希少品種守る唯一の生産者

【北海道】川合拓男さん（47）は芽室町の畑作農家の3代目。29㌶で小麦やバレイショなどを作付けする傍ら、「八列トウモロコシ」（注）を生産して、粒や粉を販売している。国立研究開発法人農研機構の「在来品種データベース」で、八列トウモロコシのうち「ロングフェロー系」の唯一の栽培者として紹介されている。

川合さんと八列トウモロコシとの出会いはおよそ20年前のＪＡ青年部活動だった。新たな作物として、同品種をスイートコーンと同じように食べてもらおうと企画したものの評判が芳しくなく、2年で栽培は終了したが、スローフードに興味を持っていた川合さんは「消えつつある食文化を守って伝えていこう」という思いから、その後も細々と栽培を続けた。

「この品種は本来、保存食。世界全体でも、トウモロコシは粒や粉で食べるのがほとんど」と話す川合さん。とうきび茶やトルティーヤ（薄焼きパン）の原料としての本州方面への出荷が主で「引き合いはあるので、それなりの価格設定としている」そうだ。一部はドン菓子（北海道での一般的な呼称、「ポン菓子」とも呼ばれる）に加工し、直売所で販売する。

今年からは、隣接する帯広市内のタコス料理店でも川合さんの八列トウモロコシを使ったトルティーヤが味わえることになるという。（注）穂に8列の実が並ぶ硬粒種のトウモロコシの総称。北海道への導入当時の品種「ロングフェロー」と「札幌八行」の純系は存在しない。甘味は少ないが独特の香ばしさやうまみがある。

今年作付け予定の畑を背に、八列トウモロコシを手にする川合さん。交雑を避けるために、周辺のトウモロコシ畑とは距離を取って、圃場の辺縁部の林地沿いに作付けする

野菜の収穫体験、家族連れに人気

東京・練馬区　白石農園

品目10種類、集客は口コミ、予約不要

区内から来園し、家族でアスパラガスの収穫を楽しんだ

【東京】6月の日曜日、練馬区の白石農園では、野菜の収穫体験を楽しむ子どもたちの声が響いていた。

同農園を営む白石秀徳さん（35）は、後継者として就農後、31歳のときに施設でのアスパラガス生産を始めた。直後のコロナ禍もあり、遠くに出かけられない中でも楽しめる機会を近隣住民に提供したいと始めたのが収穫体験だ。年々、収穫体験の品目を増やし、今では10種類ほど。収穫の際の注意点などは、動画にして二次元コードから閲覧できるようにするなど、工夫を凝らしている。

集客はＳＮＳや口コミがほとんど。この日も午前の2時間ほどの間に約80人が畑に訪れ、アスパラガスやインゲン、トマトなどの収穫を楽しんでいた。

客層は子ども連れのファミリー層が8割以上。白石さんは「家族で気軽に来れるよう予約不要にしている。畑で思い思いの週末を楽しんでほしい」と話す。

おいしい食材の宝庫、再発見へ

兵庫県　7月8日までキャンペーン

【兵庫】県はキリンビバレッジ㈱と、ひょうごの美味し風土拡大協議会との共催で「おいしい食材の宝庫再発見キャンペーン」を実施している。

キャンペーン実施店でキリンビバレッジ対象商品1品目以上を含む合計800円以上（税込み）を購入し、レシートを添えて応募すると、県産農畜水産物やこれらを原材料とした加工食品、家族で農業・水産業を学び収穫や料理体験ができる「体験コース」などの景品が抽選で当たる。

県の担当者は「県産食品のＰＲや、県の農業・水産業を学ぶことで、県産食品の消費拡大、地産地消の推進、県の農林水産業の活性化につながれば」と話す。

応募期間は2024年5月20日～7月8日、レシート有効期間は5月20日～7月7日で、応募先は、日本郵便㈱日本橋郵便局「郵便私書箱」第76号「第4回兵庫県地産地消おいしい食材の宝庫 再発見キャンペーン」係。

詳細は、キャンペーンサイト（https://www.kirin.co.jp/area/kobecp2024/）、または、フリーダイヤル0120・685・036（土曜日、日曜日を除く午前10時～午後5時）まで。

おいしい食材の宝庫再発見キャンペーンのキービジュアル